

施策番号 4-2	施策名 輝くまちづくりプロジェクト	基本的方向	地域資源を活用しひとが育ち・集う魅力的なまちをつくる			
		基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり			
	主管課	生涯学習課	課長名	江崎 健一	内線	451
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
人々の創造性や感性を育み心豊かに暮らすための文化振興や健康増進や皆スポーツを目指したスポーツしやすい環境づくりを進めるとともに、これらの地域資源を活用した人材育成を進める		町民 町民で他市町村に通う生徒		学びの基礎づくり 生涯を通じての生きがいづくり 共助社会の絆づくり				生涯にわたり、「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学び、心豊かで輝く人を育む地域づくり	
重要業績評価指標 (KPI)	説明	単位	策定時(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)		
① ジモト大学への参加者数	実績数(年間)	人	0	4.0	19.0	57.0	10.0		
② 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	住民意識調査	%	42.2	77.4	73.0	76.0	45.0		
③ スポーツしやすい環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	92.2	83.8	83.5	82.1	95.0		
評価指標設定の考え方	①ジモト大学への参加者数10人を目指す。 ②前期計画で得られなかった評価(45%超)を目標値としたもの。 ③住民満足度として非常に高い評価を得る数値とするもの。								

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	826,936	767,680	532,335
人工数(業務量)	3.9954	4.0689	5.1598

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①コロナ禍の中で、できる範囲での活動を実施し、徐々に広がりをみせている。 ②③はコロナ禍で事業の中止や縮小の影響はあるが、コミュニティ・スクールや協定事業(日ハム・スカイアース等)の実施など一定の評価を得たものとする。
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	芽室ジモト大学事業は、徐々に浸透してきている状況であり、今後の取り組みに興味を持つ高校生も増えている。中学生の参加が少ない状況は課題であるが、興味を持っている生徒も多く参加人数増に期待が持てる。 コミュニティ・スクールにおける地域住民の参画については、CSコーディネーターを中心に活動が活発化している。 文化・スポーツの振興については、引き続き企業や団体などと連携した事業を実施し、人材育成とともに環境整備に努めていく。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	芽室ジモト大学事業については、高校生を中心に徐々に浸透してきているところである。様々な取り組みを通して、郷土愛の醸成や自分自身の今後の方向性を考えさせるなどの効果が期待できる。 コミュニティ・スクールにおいては、CSコーディネーターの積極的な活動により、多くの学校支援ボランティアと協力しながら、児童生徒の育みを支えるとともに、地域コミュニティの活性化にもつながった。 文化・スポーツの振興では、コロナ禍の影響もあるが、出来る範囲で事業展開を行ってきたところである。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(総合戦略策定時との比較)							
担当課 評価	ジモト大学、コミュニティスクールについては、徐々に浸透ははかられ一定の成果が出てきている。次年度に向け、更に活性化させていきたい。 文化・スポーツの振興については、コロナ禍の中で出来る範囲でソフト事業等を実施してきたところであり、一定の成果は得られたものとする。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・芽室ジモト大学事業 <ul style="list-style-type: none"> →高校性が中心で中学生の広がりが課題。事業に対する理解が徐々に浸透し、興味を持ってくれる生徒が増えている。 →探求心、郷土愛の醸成、地域とのコミュニティやコミュニケーション能力の向上に期待できる。 ・コミュニティ・スクール <ul style="list-style-type: none"> →児童生徒の育みを支えること、地域コミュニティを活性化させること、教員の負担を軽減すること。 ・文化・スポーツの振興 <ul style="list-style-type: none"> →多様な種目や年齢層に対応した環境の整備(ソフト・ハード)。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・芽室ジモト大学 <ul style="list-style-type: none"> →参加しやすいスケジュール調整⇒町内高校2校との連携企画を検討。 ・コミュニティ・スクール <ul style="list-style-type: none"> →事業の周知方法の工夫⇒CSコーディネーターによるきめ細やかな対応により、ボランティアの確保や認知度を上げる。 ・文化・スポーツの振興 <ul style="list-style-type: none"> →ゲートボールの普及振興⇒関係機関と連携し、町で定めた「挑戦の流儀」を推進、ミドル年齢層への普及をはかる。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・芽室ジモト大学 <ul style="list-style-type: none"> →芽室高校や中学生の参加を促すため、PRをはかる。 →芽室駅前中高生が主体のイベント実施を検討。 →地域との関わりを増やし、ジモト大学事業に対する住民の認知度を上げる。 ・コミュニティスクール <ul style="list-style-type: none"> →学校支援ボランティアの全町的な取り組み⇒地域コミュニティの醸成につなげる →学校運営協議会、教員、ボランティア、保護者などの交流機会の確保。 ・文化・スポーツ振興 <ul style="list-style-type: none"> →文化活動への提案・支援、「一流を見て、聴いて、学ぶ」、社会体育施設再整備、ゲートボール普及推進の重点的な実施。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	施策2-1-2(社会教育の推進)は総合計画の社会教育全体という幅広い視点で総合的に評価してD評価であったが、コミュニティスクールやジモト大学などに特化したプロジェクトという視点では「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した					